レベル	科目名	担当者 （ふりがな）	曜日・時限	教室	目標	授業内容	テキスト	成績評価法
3	日本語３総合Ｂ１	伊能　裕晃 （いのう　ひろあき）	水曜・１限	N306	初級後半から中級の文法や言葉を覚えて、それを使えるようになる。	日本語の中級の文法（ぶんぽう）や言葉（ことば）をおぼえて、使えるようになるように、いろいろな練習（れんしゅう）をします。毎回、教科書（きょうかしょ）を読んで、予習（よしゅう）をしてきてください。かならず日本語３総合「Ｂ１」と「Ｂ２」の両方(りょうほう)のクラスに出てください。	『中級へ行こう　日本語の文型と表現 55　第2版』 スリーエーネットワーク	授業への参加度（出席・授業態度）40%、宿題 20%、テスト40%
	日本語３総合B2	伊能　裕晃 （いのう　ひろあき）	水曜・２限	N306	初級後半から中級の文法や言葉を覚えて、それを使えるようになる。	このクラスの目標（もくひょう）は、中級の文法や言葉（ことば）を使って、自分の考えていることを日本語で表現（ひょうげん）できるようになることです。読んだり、聞いたりしたことを、書いたり、話したりできるように、毎回、いろいろな練習（れんしゅう）をします。かならず日本語３総合「Ｂ１」と「Ｂ２」の両方(りょうほう)のクラスに出てください。	『中級へ行こう　日本語の文型と表現 55　第2版』 スリーエーネットワーク	授業への参加度（出席・授業態度）40%、宿題 20%、テスト40%
	日本語３会話B	増田　里香 （ますだ　りか）	火曜・１限	N204	具体的なことが説明できるようになる。具体的な談話が理解できるようになる。	この授業では、日本語の発音（はつおん）やリズムを練習し、相手に伝（つた）わりやすい話し方を身（み）につけます。また、語彙（ごい）や表現（ひょうげん）を増（ふ）やし、場面に合ったことばを使う練習をしたり、学んだことばを使って、身近（みぢか）な出来事（できごと）や話題について具体的に説明する力を伸（の）ばします。さらに、人の話や説明を聞いて大切な内容を理解（りかい）し、自分の考えや意見をわかりやすく伝える力も伸（の）ばします。	・『身近なテーマから広げる！にほんご語彙力アップトレーニング』アスク ・プリントも配布します	授業への参加度（出席、授業態度）30%、クイズ20%、課題（宿題を含む）20%、発表20%、期末テスト10%
	日本語３講読B	李　琦 （り　き）	月曜・３限	N301	日常的で長くない文章が読めるようになる。	日本での暮らし（くらし）や人間関係（にんげんかんけい）、大学生活（だいがくせいかつ）など、身近（みぢか）なテーマについて書かれた文章を読みます。語彙（ごい）や文法（ぶんぽう）を確認（かくにん）しながら、文章の内容（ないよう）を正確（せいかく）に読み取る力を身につけるとともに、日本の生活や文化（ぶんか）について理解（りかい）を深めることを目標（もくひょう）としています。	プリント配布	授業への参加度（出席・授業態度）50%、テスト50%
	日本語３作文B	江口　典子 （えぐち　のりこ）	月曜・１限	N301	具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる。	自分が知っていることについて、まとまりのある作文を書けるようにします。また、読み手にわかりやすく伝（つた）わる文章（ぶんしょう）を書くことを目指（めざ）します。 授業（じゅぎょう）では、他の人と話しながらアイディアを考え、作文を書きます。また、書いた作文を音読（おんどく）する活動（かつどう）も行（おこな）います。	杉浦千里・木戸光子『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』凡人社	授業参加度（出席・授業態度）50%、課題・発表50%
	日本語３文法B	荒井　直美 （あらい　なおみ）	月曜・２限	N301	中級前半の文法項目を習得する。	中級前半の文法を勉強します。中級前半の文法を使えるようになるために練習問題を解いたり、勉強した文法を使う練習をしたりします。小テストやテストもします。	友松悦子、和栗雅子 『中級日本語文法要点整理ポイント２０』 スリーエーネットワーク	授業参加度（出席・授業態度）40%、課題20%、小テスト・テスト40%
	日本語３漢字B	稲田　直子 （いなだ　なおこ）	火曜・２限	N204	基本（きほん）漢字400～500を学ぶ。	教科書の35～45課の漢字を勉強します。漢字だけではなく、漢字の勉強のしかたも勉強します。授業では毎回クイズをします。発表があります。	『（新版） BASIC KANJI BOOK ―基本漢字500― VOL.2（第2版）』凡人社	授業参加・発表・宿題 40%、クイズ 30%、試験 30%
	日本語３聴解B	宮本 典以子 （みやもと　ていこ）	金曜・２限	N405	日常的で具体的な談話が理解できるようになる。	自然なスピードの日本語を聞くことに慣れる練習をします。音の聞き分けや初級後半文法の復習、発話練習も必要に応じて行ないます。日常生活でよく聞く会話や歌、アナウンス等を聞く練習もする予定です。聞いて書く等の小テストを数回します。	小林典子他『新・わくわく文法リスニング100ー耳で学ぶ日本語ー【2】』凡人社など。	授業参加度50%、小テスト50%
	日本語3特別演習B［メディアで学ぶ日本語］	許　夏玲 （ふい　はーりん）	木曜・２限	N313	初級後半から中級の日本語のスキル（話す、聞く、読む、書く）が使えるようになる。	授業で使うメディアとは、絵本（えほん）、ことば遊び、マンガのような図書（としょ）、インターネット、歌、アニメなどを使った生（なま）の日本語の教材（きょうざい）です。 これらのメディアをとおして、授業では、ピア活動やグループ活動によるプレゼンテーション、ゲームなども予定しています。 日常のよく使う日本語を楽しく学ぶことを目的（もくてき）としています。	プリント配布（はいふ）	授業への出席（しゅっせき）・授業態度（たいど）50%、課題（かだい）・発表（はっぴょう）50%
	日本語2/3特別演習B［多読］	桂　千佳子 （かつら　ちかこ）	金曜・３限	N313	「多読TADOKU」の特徴を理解し、実践することで、日本語をより母語に近い使い方ができるように目指す。	「勉強するモード」から「自分のことばとして使うモード」への切り替えができるように目指す。 ①単語の意味や文法を気にしないで、「書かれている内容」について自分の中で対話できるように読む。 ②同じ場面でも、一人一人の理解が多様であることが実感できるよう、読み物などを通した対話のワークを行う。 ③学期末プロジェクト「発表」：「勉強するモード」と「自分のことばとして使うモード」のちがいについて、自由に発表する（ストーリー・動画・ゲーム・音楽・絵などの創作・今学期の取り組みへの感想・読み物紹介など、なんでもよい）	教室に準備してある多読用の読み物、多読に適したサイト紹介などから好きなものを選んで読む。	読書記録の提出（本の冊数は関係ありません）50%、 最後の発表　50%